

=市史編さん便り= 【32号】 令和5年8月28日(月)発行.

*****土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

「土佐清水市郷土史同好会 8月定例会」

「市史編さん講演会」終了 一同和教育史一

8月19日(土)土佐清水市中央公民館3階多目的ホールにて午前10時より約1時間にわたって、『新土佐清水市史』で同和教育史を執筆した浜岡篤編集委員(土佐清水市人権教育研究協議会会長)の「本市同和教育史について」の講演会が開催された。主催は土佐清水市郷土史同好会(会長武藤清)、共催は土佐清水市教育委員会(教育長岡崎哲也)で市史関係者・郷土史同好会会員・市民など32名の出席者があった。また、高知新聞清水支局・小笠原支局長の取材もあり、後日高知新聞にも記事として紹介された。

冒頭でインターネット上に悪質な部落差別の書き込みが平然となされ、身近なところに部落差別は残っている現状を紹介。また、今回の市史の同和教育史の概要をダイジェストに説明した。その中で土佐清水市内において、高知市に先駆けて教科書無償化の署名運動を展開した指導者H氏についてエピソードを交えながら紹介。また、三崎中学校で同和教育主任を長年勤め、子ども会活動等を通して様々な取り組みを展開してきた故平林健功氏の取り組みも併せて紹介した。

市内の全小中高の教員の皆様にもチラシを配布し、ご案内していたが丁度土曜日であり、参加者が少なかった(2~3名)。「新土佐清水市史」を「人権学習」「社会科学習」「総合的な学習」等に積極的に活用していただきたいと考えている。市内で教職にある皆さんには、しっかりと地域史(土佐清水市史)を学習していただきたいと思う。そうでないと「ふるさと学習」は、絵に描いた餅になると思う。多忙であることは百も承知。今後に期待したい。ご多忙の中を無理をおして講演いただいた浜岡篤編集委員に感謝申し上げたい。

次回の「土佐清水市郷土史同好会9月定例会・市史編さん事業講演会」は、下記の日程で、谷岡暁美編集委員(学校教育史を執筆)にご講演いただく予定です。

当日は、丁度、清水中学校の体育祭と重なっておりますが、日程はそのままで開催させていただきます。よろしくお願い致します。

(会合名)「土佐清水市郷土史同好会9月定例会・市史編さん事業講演会」

(日時・場所)9月16日(土)10:00~11:30(開場9:30から)

土佐清水市中央公民館3階多目的ホール(市役所西側)

(講演内容) 演題「市史編さんにおける学校教育史について」

講師 谷岡 暁美 氏

土佐清水市史編集委員(学校教育史を執筆)

元土佐清水市立足摺岬中学校校長

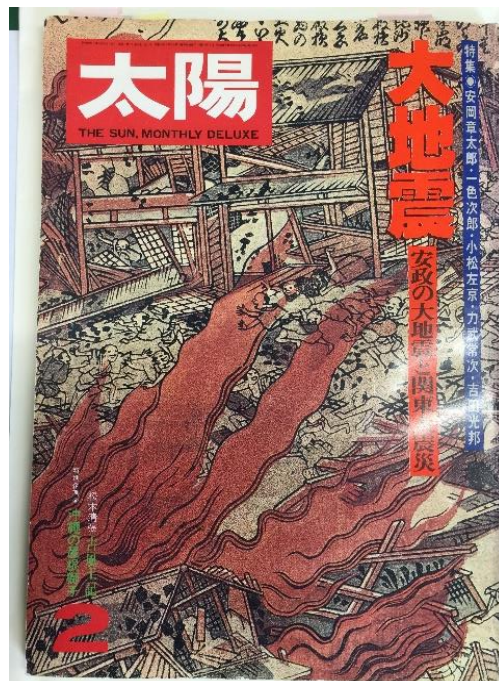
9月1日は「防災の日」 日頃からの意識が大事

大正12年(1923)9月1日は、関東大震災が発生した日です。その日、午前11時58分に発生し、死者行方不明者は約14万人(負傷者約10万4千人)、家屋の損壊は57万戸にも及んだという。

地震の大きさはマグニチュード7.9~8.2といわれる。東京や横浜では、丁度昼食時間帯であった関係から火災による死傷者が続出した。

「防災の日」は、昭和35年(1960)6月7日に設定された。「線状降水帯」「台風の巨大化」「南海トラフ地震」など災害が身近にある私たちは、防災への備えを日頃からしっかりと行い、意識を高めておく必要がある。

→右の写真は、土佐清水市在住の中内義隆氏所有の関東大震災の版画をもとに製本した『太陽』の表紙である。中内氏の掲載許可済み。



◎構 俊一『小学1・2年で習うのに大人も読めない漢字』 幻冬舎、2020年

おもしろい書籍がありましたので紹介させていただきます。著者の構 俊一(かまえ・しゅんいち)さんを紹介します。1956年生まれの67歳、神戸市のご出身です。東京大学卒業後、新聞社・出版社勤務を経て独立。出版プロダクションを率い、約1000冊の書籍を執筆・編集する。『できる大人のモノの言い方』(青春出版社)、『読めないと恥ずかしい漢字1000』河出書房、『今更意味を聞けない日本語1000』幻冬舎など多数のベストセラーがある。

多勢(×おおぜい ○たぜい) 「おおぜい」と読むのは「大勢」の漢字。

多言(×たごん ○たげん) 口数が多いこと。「多言を要しない」などと使う。

幾年(×いくとし ○いくとせ) 何年という意味。

三井寺(×みついでら ○みいでら) 滋賀県大津市の園城寺の別名。

吞舟の魚(×どんしゅうのさかな ○どんしゅうのうお)

舟を丸呑みするような大魚のことを言い、そこから大人物のことを指す。

日々是好日(×ひびこれこうじつ ○にちにちこれこうじつ)

毎日が平和なよい日であること。「日々」は古くから「にちにち」と読まれてきた。

高野切(×こうやぎり ○こうやぎれ)

『古今和歌集』の現存する最古の断片。紀貫之筆と伝えられ、高野山に伝わるのでこの名がある。

夜着(×やぎ ○よぎ)

掛け布団、あるいは掻巻(かいまき)のこと。夜に着る服のことではない。